

## メルマガ「頂門の一針」に書いたこと(五) 上西俊雄

平生二十三年一月八日、三月三日(末尾に目次)

### 梅ヶ枝の手水鉢

三鷹から調布に越して四度目の正月を迎えた。この四度目といふことの記憶が既に定かでなくメモで確認しなければならぬ。生れてから何度めかなど沙汰の限り。数年前から数へで歳をいふやうにしてゐたが世間と違ふので混乱してゐたが年男だったので還暦から更に一回りしてゐることが判った。これから喜壽、米壽、卒壽、白壽、茶壽(草冠は十と十、下に八十八で百八)、皇壽(王は十と二、それに白で百十一)、頑壽(扁が二と八、旁が百と一と八で百十九)、昔壽(百二十)とあるといふことは唸聲さんのメルマガ「寫真情報網・週刊AWACS」で知った。その上に天壽があるとあつたけれど歳が分からなくなればすでに立派な天壽だと思ふ。ここに擧げた壽は數へが原則。

歳を萬でいふか、數へで言ふか。萬で數へるのは戦後の流儀。こちらの方が新しいから、今時數へで言へばわらはれるのが落ちだ。小さいときは歳は正月でとると決つてゐたから、ことさらに誕生日に祝ふといふことは餘程の分限者(鹿兒島方言、ブゲンシヤ)の家に限られてゐた。生れたときから起算するか、いはば受胎告知から起算するかといふことも、今なら後者の方が合理的のやうにも思はれる。始めての子を幼稚園に入れたとき園長が「お子様の個性を伸ばすやうに云々と挨拶したけれど、やっと集團で扱へるやうになつたのだから、逆立ちしてゐる」とカミさんが言つたので成る程と思つた。入社は四月なのに定年はばらばらといふのも面倒なはずだ。

正月を祝ふといふことも大分おろそかになつた。「もういくつ寝るとお正月」の歌を耳にすることもなく、ラヂオを付け

ると「神様がいらっしゃる」などと耶穌くさいものばかり。今からうじて残つてゐるのは初詣くらいか。元日は地元の布多天神に初詣。行列が二手に分れてゐて整理の人が「テミツを使ふ人はこちら」と言ふのでテウツだと教へのだけれど常用漢字音訓表にある読み方ではない。相變らずテミツと言つてゐた。いや文部省式ならテミズと書くべきかもしれない。

水はミツ、ミドリに縁のある語だから瑞々しいはミドリミドリしてゐることだと説く人もある。テミツだと頑張つた係の人、時代劇など手水鉢など出てくるものを見たことはないのかもしれない。眞道重明さんのサイトの閑人妄語(三)にある擴張へボン式併記の懐かしい唄には梅ヶ枝がある。

梅ヶ枝の手水鉢叩いてお金が出るならば

もしもお金が出た時はそのときや身請けをそれたのも

漢字を制限し假名字母を制限し、からうぼにした學校教育、いつまでたつても身請けはできないだらう。

去年は十一月に靖國神社崇敬奉贊會に入會。それが切つ掛けで昭和十八年西南太平洋にて戦死した叔父の名前に一字疑義が生じ、除籍謄本を取つて修正。神社の記録の嚴密なことに驚いた。いやこれが當り前だつた筈だがいつの間にか社會保險廳のやうなもの普通だと思ふやうになつてしまつてゐた。除籍謄本の記載、表記は大字。こここのところの記載をそのまま寫すと「昭和拾八年九月參拾日午前六時參拾參分西南太平洋ニ於テ戦死西部第六十一部隊長瀬戸口榮藏報告」。戦後の字體の簡略化とはまったく逆の考へ方で記載されてゐたことが判る。

十二月に連聲のことで擴張へボン式にとが教師を縛つてゐる。

加筆。「頂門の一針」でローマ字や假名のことについて書いてきて到達できたこと。お蔭で一年の最後を好い年であったと締めくくることができた。主宰者に感謝するとともに御健康を切に祈りあげる次第。眞道重明さんのサイトでは言葉の詮索(3)で公開。眞道先生の御長壽の久しからんことを。

正月は郷里で迎へることが多かったのだけれど體調のことがあり今年は在京。そのお蔭で暮に長女一家と會食。孫の通知表はまあまあ成績。親が氣にするので、國語のところを例に、まともに採點できるわけないだらうと説明したのだ。ネットですぐと見つけた國語の採點項目は次の通り(學年は不明)。

- 効果的に表現したり、正確に理解したりしようとする。
- 考へたことや傳へたいことなどを的確に話したり、聞き取ったりする。
- 考へたことなどを筋道を立てて文章を書く。
- 目的に應じた内容や要旨を読み取るとともに、讀書を通して考へを廣げたり深めたりする。
- 音聲・文字・語句・文や文章・言葉づかひなどの基礎的なことから更に理解する。
- 文字の形、大きさ、配列などを理解して、整へて書く

ここに國語の力を問ふてゐるものがあるだらうか。假名遣が正しいかどうか、漢字を知つてゐるかどうか、さういふ基礎的知識について採點するところはない。だから教へる方もいいかげん。所見もすべて平假名。漢字は一字も使つてない。子供の知らない字は使はないやうにしてゐるのだ。語を使ふべきときに使はないで學年配當のときになつて教へるといふこ

今年正月休みが長い。孫が二人で電車で行つて来た。驛まで迎へに行く。来た電車に乗りさへすれば調布には必ず停車するので来ることは出来るやうになつたけれど、歸りはさうはいかない。各驛停車が快速電車ならよいが急行では通り過ぎてしまふ。

各驛停車なら4341つまり四年で習ふ漢字、三年で習ふ漢字、四年で習ふ漢字、一年で習ふ漢字だ。快速電車なら4321。急行電車なら3221。どうも暫くは送つて行かなければならぬやうだ。教育の效率が悪いだけではない。子育ての社會的費用を高くしてゐるわけだ。◎2148(23.1.8)

### 花岡信昭氏の地頭(チアタマ)論に附して

2157號(一月十七日)に轉載の花岡信昭メールマガジン878號は「地頭」についての論。いろいろ考へさせられた。守護地頭のチトウでなくチアタマと讀む。いや文部省式ならジトウでなくジアタマと讀むと書かなければならぬところ。このことがどれほど我國の教育を損なつてゐることか。

同じ日の日経朝刊に縣立浦和高校の關根郁夫校長の寄稿。「學校現場で日々課題對應に追はれてゐると、ふと素朴な疑問がわく」として次のやうにある。

「目の前の教員たちは、朝早くから夜遅くまで子供たちのために働き、帰宅後も教材研究に勵んでゐる。意欲も能力も高いのになぜ、教員に課題があり資質向上を圖るべきだといふ論調が主流を占めるのか。」「フィンランドに學べ」とよくいはれるが、もし土俵が同じであれば、これだけ頑張る日本の教員は海外の教員に決して引けをとらないのではないかと。

フィンランド語ではPISAの結果はじまったこと。今回参加した上海はフィンランドを抜いて一位であった。そして上海は漢字圏だ。漢字が桎梏であるならば不思議な現象ではあるまいか。しかし、さういふ風に問題をたてる人はあないやうだ。フィンランド語について、時事通信のメルマガ「内外教育」第327号（六日）巻頭コラムで前秀明大學特任教授糟谷正彦氏は次のやうに書いてをられる。

學力水準の向上を圖るためには、地方分権と規制緩和で、學校の裁量の幅を廣げて、あとは教師の指導力を高めるべきだといふのがマスコミ一般の論調である。世界一の學力の國といはれるフィンランドでは、大學院卒の教師が自由に教育してゐると喧傳される。

ところが、本誌（九月二十四日號）の「國支給の教材が支へる世界一の學力 フィンランドを視察して」といふ？ 山英男立命館大學教授の報告によれば、どうもさういふものではないらしい。授業で使ふ標準的なプリントやドリルが素晴らしく、それを國が作成し、支給してゐるとのことである。多くの日本人がフィンランドを視察しているにもかかわらず、先入観を持って見てくるから、最も重要な點を見落としてゐるやうである。

先入観、むかしは先入主と言った。最近、やっと先入主といふ言ひ方が納得できるやうになった。抜きがたくなつてゐる見方で簡単に變へることができない。漢字が桎梏であり、假名遣はその時點での音韻にもとづいて最適なものに切替へるべきだとするのが戦後教育で植えつけられた先入主だ。ア行と同じに讀むウエヲ

や八行假名を不要とし、ジャズがあるからチもツも不要とした。花岡さんはいつかりチをつかつてしまったけれど、さういふことをしないやうに文化廳が指令を出し、教員もそれを守るやうに研修を重ねなければならぬ。まともな教育など出来るわけがないのだ。

我國に正書法がないこと、これはローマ字の混亂をみてみれば判る。ローマ字の混亂はヘボン式とか訓令式とかいふだけの問題ではない。念のため記すけれど、ヘボン式は撥音をロとヨと書分ける。新橋はshimbashiと書くのがヘボン式。普天間はテレビで見るとかぎりfutenmaだからヘボン式ではない。ローマ字引きが營業的に難しくなしかけた頃、研究社大和英がヘボン式で見出しを立ててゐたのを撥音に限つて、ロだけで通すこととした。米國國會圖書館では、この方式が日本で一般的だとと錯覺したのか、研究社方式になつた。平成十六年、國土地理院院長通達でヘボン式に切替へることになつたけれど、その方式を定めた菱山論文ではヘボン式は撥音を書分けることが必要條件。これからの地圖では普天間はfutenmaとなるわけだ。もう一つ、平成二十一年に出來た外國人のための『日本語學習・生活ハンドブック』では長音は母音字を重ねて表すといふ新方式だ。文化廳國語科の制作だから、文化廳方式と呼んでもよいだらう。まさにバベルの塔だ。

閑話休題。戦後の文部省は結局のところ當時のローマ字に對應するやうに五十音圖を破壊した。それでいゆる現代假名遣なるものが生れたが表記のゆれを認め一時しのぎのもの。正しい假名遣といふものは存在しなくなつた。では正しいローマ字といふものならあり得るかといふと、據り所とすべき假名表記がないのだから、それもまたあり得ないのだ。

今年度の大學入試センター試験の國語

問題をみてみるとよい。最初にあるのは現代文。長い文章のあとの設問の第一は漢字の知識を問ふもの。長い文章とは何の関係もない。漢字の知識をそのままに問ふのはむくつけきものでも考へてゐるのだらうか。後は解釋の問題ばかり。

花岡氏は地頭を鍛えるには讀むことが大事だとして司馬遼太郎ではなく池波正太郎を讀めと次のやうに續ける。

司馬の本を讀んでもいつかうにかまはないのだが、日本語の奥深さを知るには、池波でなくてはだめだ。やさしい言葉で人情の機微を表現することができるのが日本語の妙である。

これは重要な指摘だ。國語教育では内容を問題にして解釋を問ふことが多い。國語教育が解釋に重きを置けば國語の妙がおろそかになる。センター試験問題の國語、第三問に至つて古文。この場合なら解釋を問ふのは國語の問題として成り立つが、解釋であれば、司馬と池波の史觀を問ふやうなもので國語のことは消えてしまふ。

第三問では活用語尾を動詞助動詞に分類させる文法の問題もある。だからいささかほつとするのだけれど、問題文が保元物語からだといふのが氣になる。保元物語などこの歳になるまで讀んだことがない。現代文に比べて古文はそんな程度にまで進んだのだらうか。同じやうな疑問は第四問の漢文についても感じた。『金華黄先生文集』といふものからの出題なのだ。「といふもの」と書いたのは恥づかしながら聞いたこともないものだったからだ。

國語表記を國が管理してゐるから、専門業者でなければ問題作成もままならない、すると著作権のことがあるので、段々とこれまで出題されたことのないやうな

ものに移つてしまふ。さういふことの結果であるやうに思はれてならない。

「則其求之也、曷嘗不貴於敏乎」を讀下し文にする問題もあつた。今レ點を力タカナで、一二を算用數字で示せば「則其求レ之也、曷嘗レ不貴<sub>レ</sub>於敏一乎」。これも私には難しかった。まあ幾つかならべてあつて、そこから選ぶのだからなんとかなつたけれど、曷を「いつくんぞ」と訓ずることも知らなかつた。無知を棚にあげていふが、かういふ力を必要だとすることと、「世界中」はセカイジユウだと常用漢字音訓表で「中」の讀みはジユウと決めつけることとどう折合をつけるのだらうか。因みに我が假名漢字變換システムでは世界中はセカイチユウと打たねばならなかつた。

私は花岡氏が「地頭」をチアタマとしたことに満腔の贊意を表するものだ。たかがそんなことに大仰な言ふ勿れ。最近讀んだ一文を紹介したい。

假名遣は新しいにした。いままで舊いをつかてゐた私がどうしてさうしたかといふと見えなくなつたからである。私は編輯者であることを好み、ことに校正のしごとが好きであつた。ただし新假名はできなくて覺えよつともしなかつた。新假名の知識があると私のしごとは一目で睨みがきかない。校正できなくなつたが實はこの原稿は全部舊假名で書いてある。印刷所は親しかつたころだから直してくれるであらう。題名や引用を示す括弧のなかは舊假名にしておいてもらふ。私はいまでも舊假名が好きだが、どうせ見えないのだから多くの讀者に便利な方がよいと思ふ。

鹽谷贊『幸田露伴』の自序の一節。目

を悪くした人の辯。教科書も端末になるかもしれない御時世。どうして音聲が基本だからと目の方をないがしろにしてよいものか。

露伴は Dickens を Dickens、Wordsworth を Wordsworth と書いてゐる。今ウイキペディアでみるとディケンズとワーズワースだ。子音についてみると明治期の方が正しかった。假名字母制限のせいだ。だから needs を needs、kids を kids としなければならない。ここでは英語教育がうまくいくはずがない。そして相変わらず外国人先生のために右往左往してゐるのだ。十一日日経夕刊の記事によれば静岡縣富士市教委は市立小中学校の ALT を直接雇用し切替へるに伴ひ、昨年始めて ALT の採用を行なつた。「英國や米國の出身者にこだはつてゐては人数が集まらない」と、英語を公用語とするアジア圏の外国人も含めて募つたが、十二人の採用豫定に對し決つたのは八人。十四人が應募したが英語力に問題がある人もゐたとのこと。

先日或る席でカゴツマベン(鹿兒島辯)をローマ字でどう書くかを話題にしてみたが出来る人はなかつた。音聲と文字の關係、表音主義を標榜したはずが、この基本を忘れてゐるのだ。

日経夕刊の記事の冒頭はかうだ。

小中高校で英語の發音などを教へる外國語指導助手(ALT)の確保に、地方の教育委員會が頭を悩ませてゐる。採用や勞務管理のコストを抑へるため民間委託が多かつたが、制度上日本人教師との連携が十分にできないなどの問題も浮き彫りになつた。今春から小學校の英語義務化がスタートするなど役割が増すなか、直接雇用しに切替へる自治體もでてきた。

要するに英語を教へるときに發音だけを取り出して別に教へるべきだとしてゐるのだ。アルファベットを letter と呼ぶ letter は文字の單位であり同時に音聲の單位でもあるといふ覺悟がないのだ。その奇妙さに記者も氣がついてない。先入主の強さを思ふ次第。 ㊦2160(23.1.21)

### 假名字母の制限とローマ字の混亂

2160 號(11.1.21)で、これからの地圖では普天間は futemma となると書いたのは間違ひであつた。何故間違つたか。少し丁寧に書いてみたい。

なほ引用部分の表記も好みに従つた。和文中のピリオドとコンマは句讀點にあらためた。このピリオドとコンマ、パイプトのもの。しかし直後に空白がなかつた。全角の場合は後ろの餘白があるが、公文書の書き方はそこまで規定してはないのかもしれない。歐文の場合は period や comma の直後は空白を入れるのが常道。

國土地理院がローマ字の方式の變更を決めたのは平成十六年。測圖部菱山剛秀といふ署名の「地名のローマ字表記」といふ論文。要旨に次のやうにある。

國土地理院が作成する地圖及び地名集における地名等のローマ字表記の原則については、昭和五十九年四月三日の國土地理院長達(國地達第9號)により昭和二十九年内閣告示第一號の第一表(以後「告示第一表」といふ。)のつづりを採用してきたが、制定から二十年を経過し、この間に海圖、航空圖、地質圖等國が作成してゐる基本的な地圖をはじめ、日常生活においても道路標識や鐵道の驛名等のローマ字のつづりがいはゆる修正ヘボン式(以後「ヘボン式」といふ。)に統一されてきた。

第六次基本測量長期計畫のスター  
トに當り、かうしたローマ字表記に  
關する國內の動向を、今後國土地理  
院が作成する地圖等のローマ字表記  
に反映させるため、昭和五十九年に  
制定した現行のローマ字表記の原則  
を見直すこととした。

これを讀むと告示第一表方式からヘボ  
ン式に變ることになりさつであるが、ヘ  
ボン式と言ひながら撥音を  $\text{ロ}$  と  $\text{エ}$  とつ  
かひわけないことがあるから、その點が  
どうかを確認しようと思つていくと、三頁  
にローマ字の比較表がでてくる。ヘボン  
式、日本式、訓令式を比較したもの。撥音  
についてはヘボン式は精確に  $\text{b}$ ,  $\text{m}$ ,  $\text{p}$  の  
前では  $\text{フ}$  だとある。

六頁に至つてやつと「國土地理院のロー  
マ字規定」の章になる。最初の改訂の概  
要には

- 1 ローマ字のつづり方
- 2 長音記號の扱ひ
- 3 分ち書きの簡素化

といふ子見出しを立てた記述があるが撥  
音に觸れたところがない。最後の十一頁  
は冒頭に「國土地理院が作成する地圖及  
び地名集における地名等のローマ字表記  
に關する規定及び同細則の解釋と運用」と  
あつて署名も日附も獨立の國地企調發第  
5777號といふ文書。このことは

はねる音(撥音)「ん」はすべて「 $\text{ン}$ 」  
と書く

と書いてある。一度はここまで讀んで擴  
張ヘボン式の比較表を書いてゐながら、記  
憶が曖昧になつて原文で確かめようと  
して錯覺してしまつた。しかし、これはや  
はり判りにくい。六頁のローマ字の綴り  
方のところで書くべきものだと思う。

ところでんをすべて  $\text{ン}$  と書くのは日本  
式(訓令式)の方法。田中館愛橋の主張し  
た日本式は音韻論的整理をしたものと  
言語學者に支持者が多いけれど、日本人  
のための日本語表記であることが前提。英  
文中の固有名詞の表記にはなじまない。

一月三十一日の日本經濟新聞教育欄は  
教員養成の問題。ローマ字を例に考へて  
みると矛盾だらけであることが判る。菱  
山論文の比較表にある通り、ローマ字の  
方式はヘボン式か訓令式、よほど詳しい  
人が日本式を知つてゐる程度。小學校の  
先生だつた人からローマ字は教へたがら  
ないのだと聞いたことがある。指導要領  
に方式が定めてあるわけではないが、訓  
令式を教へることになつてゐて、それが  
嫌なのだとのこと。教員はヘボン式が正  
しいと思つてゐるのださうだ。中學校の  
英語ではヘボン式を教へてゐるのだと思  
ふ。そのとき撥音の  $\text{エ}$  と  $\text{ロ}$  との書分け  
まで指導するのかどうか。これはまぢま  
ぢかもしれない。しかし、東京大學教養  
學部英語科の推奨方式は書分ける。さう  
いふ教育を受けて役人になれば普天間は  
*futemma* と綴りたくなるだらう。少なく  
とも  $\text{ロ}$  と  $\text{エ}$  が別の音であるといふ程度  
には英語が身につけてゐるはずだ。

だから、もしんはすべて  $\text{ン}$  と書くこと  
にするのであれば、「同細則の解釋と運用」  
のやうなものを設けて「 $\text{b}$ ,  $\text{m}$ ,  $\text{p}$  の直前  
の  $\text{ン}$  は  $\text{ン}$  を表す」と書くことが必要。

なほ外務省の方式を地方自治體のサイ  
トのパスポートセンターといふところで  
みると撥音はヘボン式。だから今テレビ  
でみる普天間の綴りではないはずだと、念  
のため外務省に問合せると普天間に關し  
ては研究社方式つまり撥音は  $\text{ン}$  で通して  
ゐること。パスポートセンターは人  
名の場合、普天間は地名だからといふわ  
けでもないだらうが、釋然としない。

パスポートセンターの説明が神奈川県

と東京都で微妙に異なることを発見した。どちらもいはゆる長音に關する注意事項。東京都は「。や」は記入しない」、神奈川県は「姓または名の末尾部分のふりがなをオとしたものは。と綴る、姓または名の末尾以外のふりがなをオとしたものは。を入れない、姓または名の末尾であるか否かに關はらず、ふりがなをウとしたものは「をを入れない」と三段構へ。

具體例で言ふと、東京都の場合は大野は ono 齋藤は saito となり、神奈川県の場合は妹尾は senoo 横尾は yokoo、大河内は okochi 大野は ono、狩野は kano 中條 chujo となるといふのだ。神奈川県的方式は筆者の言ふ新米國式（英語ウィキペディアの方式）と丁度逆になつてゐる。

新米國式では。の聯續は長音と看做し疊込むけれど、on は長音とはみない。宣長が字餘りの研究からワ行音とア行音を區別したことを思ひ合はせると、いはゆる現代假名遣（筆者の言ふ制限假名字母表記）を前提としたために生じた混亂。

以上を並べて示すと次の通り。

漢字	擴張へボン	東京	神奈川	新米國
大野	o'ono	ono	”	”
齋藤	saitou	saito	”	saitou
妹尾	senowo	seno	senoo	seno
横尾	yokowo	yoko	yokoo	yoko
大河内	o'oka'uchi	okochi	”	okouchi
狩野	kanou	kano	”	kanou
中條	chuudeu	chujo	”	chujou

最初が擴張へボン式で歴史的假名遣を轉寫した綴り、次が東京都の方式、第三が神奈川の方式、最後が新米國式。新米國式はいはゆる長音を疊込んだ場合はマク

ロンを冠した字母つまり正しい意味でへボン式を用ゐる。ここに掲げたのは検索の便のために埋めこむ綴りの方。（なほ、擴張へボン式の場合、逆アポストロフイは語中の八行音。au 及び a'u は autumn のそののやうに、eu 及び e'u は Europe のそののやうに發音する。）

假名字母の制限はローマ字論に合せたものと度々書いてきたが、神奈川県や東京都のパスポートセンターの場合はローマ字が制限假名字母表記に合せたため。ローマ字の混亂と假名遣の混亂、今や鶏と卵のやうにどちが先とは言へなくなつた。ローマ字と假名遣、兩方論じることが必要なのだ。◎2170 號 (11.2.2)

### 國語がなければ國はない

櫻井よし子を總理大臣にといふ聲がある。十年以上の昔さう言つてゐた先輩がゐたけれど飲んで死んだ。遺品の中にフランクリンがあつた。

フランクリンは面白いことを言つてゐる。王族であれば自分一代の榮耀榮華のために民百姓を苦しめる怖れはないが、一代限りで派遣されてくる代官の場合は恐ろしいのだと。さいはひ、我國はすめらみことのしるしめす國。仁徳天皇の歌として傳はる歌

高き屋にのぼりて見れば

煙立つ

民のかまごは

にぎはひにけり

の詞書は「みつき物ゆるされて、國富めるを御覽じて」。フランクリンにはほかにも以つて他山の石とすべきことがある。他山の石は玉でないことが原義だから、かういふのは變なのだけれど、それらは我國にこそ具はつてゐたものなのといふ思ひが募る。

櫻井よし子は天皇、防衛教育の三つが大事だと言ふ。三つ擧げるのなら教育でなく國語とすべきだ。

フランクリンの始めたことはまづは良書を如何に手に入れるかだった。教育も學習もそのあとだ。十八世紀の建國でありながら彼らの主張は歐州の人々を刮目させるだけの高みにあつた。我國は讀書に於て昭和二十年の建國。

二月最後の日のTVタックルは教育問題。最後に理系教育こそ重要だといふ主張をする若手に對して誰も物言ひできないままにはつた。

國語がしっかりとしてみなければ理系の教育もおぼつかないのだと言へば、英語でやるから大丈夫だと返つて來さうな氣がする。かくしてわざわざ外國語といふ不利な條件を課して小數のエリートを育て上げたとして一體どうなると思ふのだ。英語教育に成功してみたら、最後は米國の大學を出て米國人と結婚、米國で就職といふのがオチだらう。

國語がなければ國はない。TVタックルでは數學が話題になつた。だから國語がなければ數學もないといふことをつけ加へておきたい。一つ二つと數へるときは英語で言ふ不定代名詞で序數とは異なる觀念に對應すると思ふのだが、今は運動會の玉入れの玉をかぞへるときも初めからイチニイサンとするところが多い。かういつたことも幼児の頭腦の發達と無關係ではないはずだと思ふものだ。

ところで試験の最中にトイレに行けるさうだから試験をやる側も甘い。ネットで問合せなくても携帯電話だと辭書を引

くことはできるのだから。しかしネットに問合せたので外部にもれた。被書届を出しに交番をおとづれたとのこと。オートツレが變だ。ひよつとしたらオートスレだと思つてゐるからかもしれないがオートツレであれば、音が聞える立場が視點になる。ここは赴く先。だから届けを出すといふ表現と平仄が合ふ。

ニュージーランドでの地震で崩れた學校は King's Education といふところのやつだ。これをラヂオでは最初キングスエデュケーションとsを無聲音で讀んでゐた。ここは有聲化する環境。ズでなければデューケーションといふ日本語の音韻としては圏外に近いものまで動員した讀み方にはなじまない。

最近、パソコンが毀れたので新しくした。假名漢字變換システムは昔からWXXG、これはローマ字を好きなやうに設定できる。そのWXXGが新しいOSでは動かかない。仕方なくMSIMEを始めて使つてみた。choumonnoishinと打つても頂門一針にならない。もう一つ餘計にロを打たねばならない。これはどうしても理解できないことだ。或る縣の高等學校英語教育研究大會に招かれたとき、研究授業をみた。音聲だけでやる授業。生徒がロのところをロと發音しやうがngと發音しやうがおかまひなしだ。字を書き間違つたら直してやるだらうに、發音となると實にいいかげん。しかし、この打鍵であれば、發音などいいかげんにならざるを得ないわけだ。どうして、ローマ字のこの不合理を糺さないのか。◎2198(22.3.3)

## 目次

梅ヶ枝の手水鉢（漢字學年配當の馬鹿馬鹿しさ）	1
花岡信昭氏の地頭（チアタマ）論に附して（センター試験の國語問題）	2
假名字母の制限とローマ字の混亂（普天間の綴り）	5
國語がなければ國はない	7